

## レクリエーション機能

- 目黒区の公園整備面積は、48.76haで、区民一人あたりの面積は1.82㎡/人です。これらの公園緑地は、区民に身近な遊び場を提供しています。一方で、身近な公園が少ない地域もあります。
- みどりの散歩道は、公園や社寺をつなぐ良好なみどりのネットワークを形成しています。

## 景観形成機能

- 公園緑地や水辺、街路樹や緑道、生け垣、社寺林などがみどりの景観資源として、目黒区の「自然」や「生活空間」「歴史」の景観を構成しています。
- 区民に対する「好きなみどりのある風景」アンケートの結果では「林試の森公園」「目黒川」「呑川本流緑道」が多く挙げられています。

## コミュニティ形成機能

- 多くの地域のコミュニティが公園を活動の場としています。
- 公園を中心に、グリーンクラブや公園活動登録団体などの多くの団体がみどりを守り育てる活動を行っています。
- 様々な観光イベントや歴史的祭事の場として公園や社寺が活用されています。

## 感性をはぐくむ機能

- 四季を感じるみどりとして、目黒川や呑川本流緑道の春の桜並木や、目黒通りの秋のイチョウ並木などが特徴的です。
- 大規模な公園や農地で、自然や農を感じるイベント等が行なわれています。
- 地域への愛着を培う大径木は、大規模な公園や大学・社寺で多くみられます。

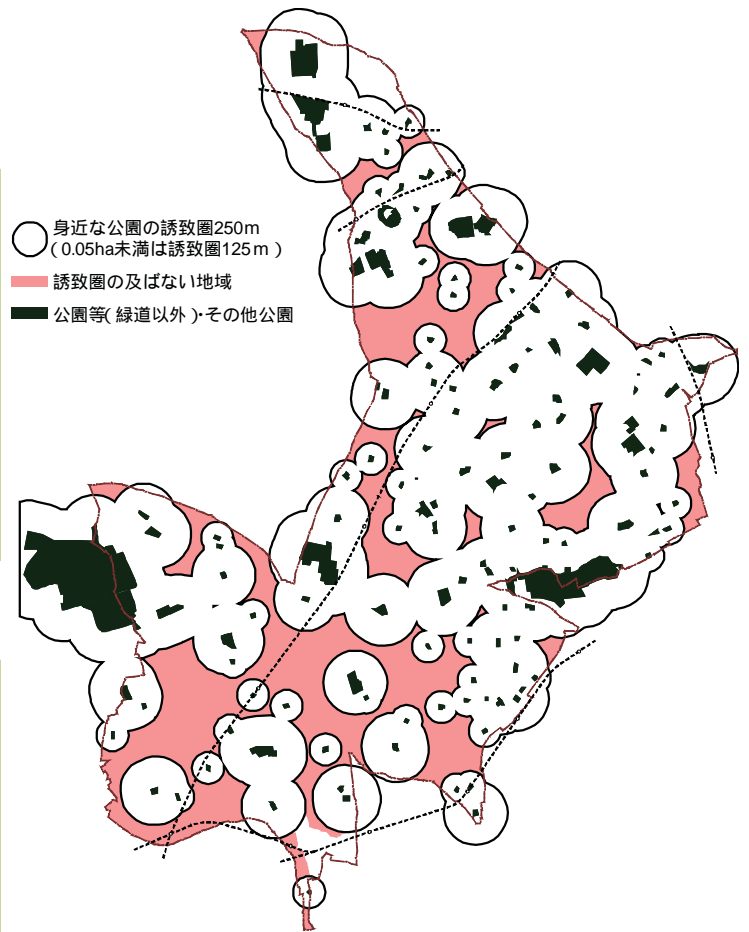


図8 身近な遊び場を提供するみどり

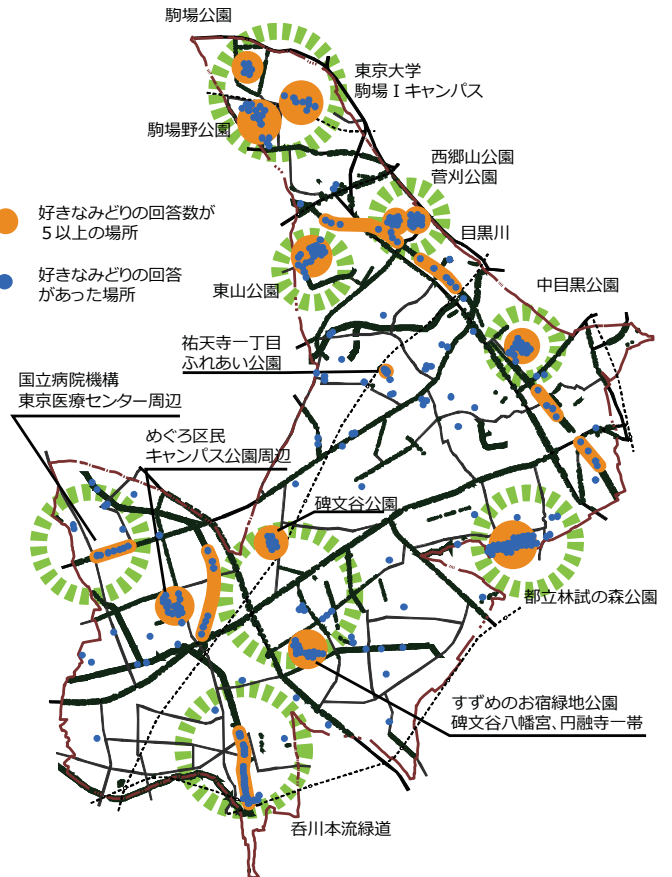
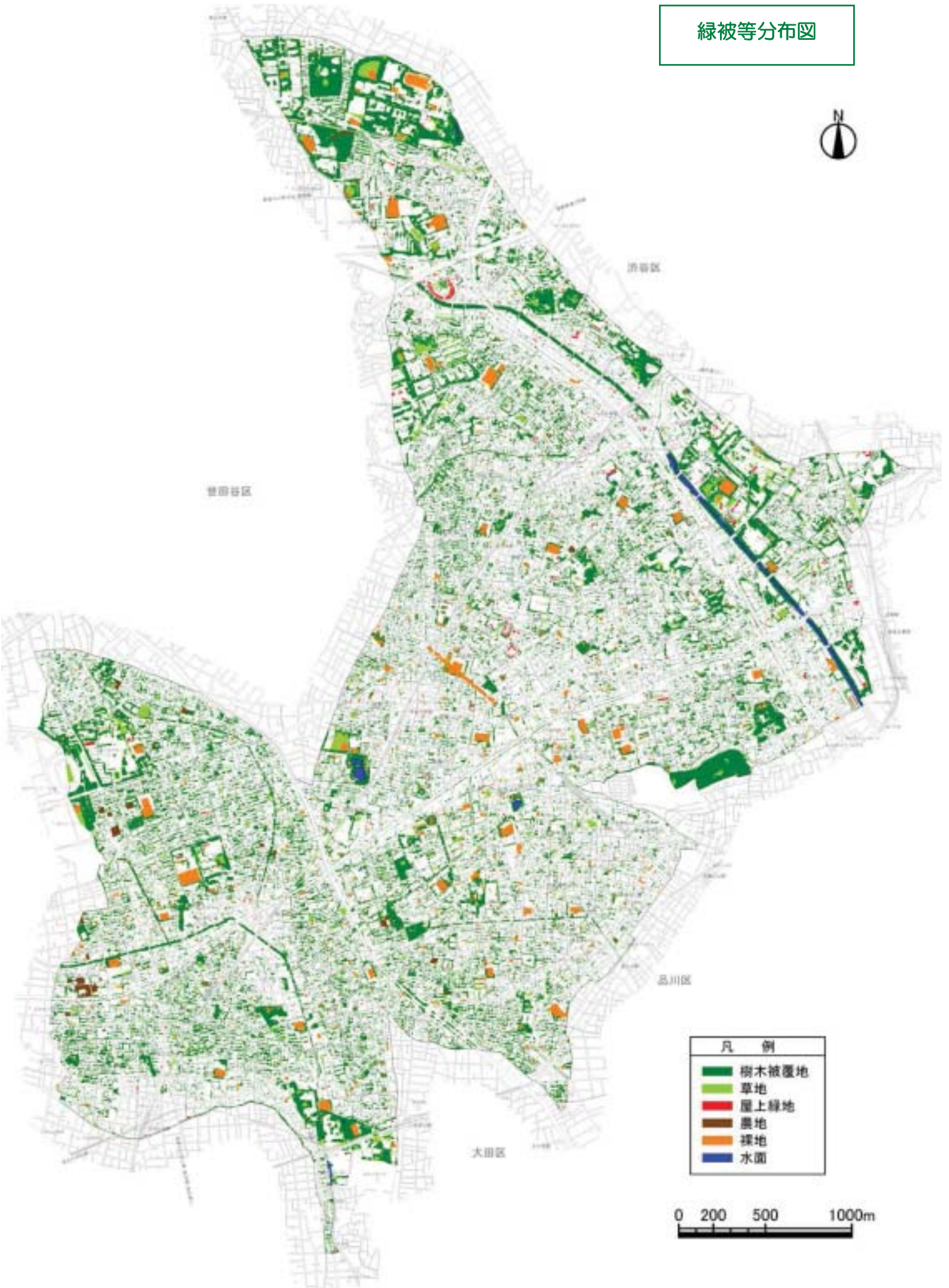






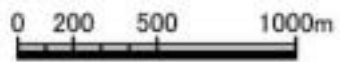


図9 区民の心に残るみどり

# 緑被等分布図



凡 例	
	樹木被覆地
	草地
	屋上緑地
	農地
	裸地
	水面



# みどりは私たちの貴重な資源、大切に育て守ることが必要です。

区内の緑化事例を紹介します。生け垣は地域のみどりの景観や防災機能の向上、壁面緑化や屋上緑化はヒートアイランド現象や地球温暖化の緩和にも貢献しています。ビオトープは身近な生き物とのふれあいをもたらします。

## 生け垣（共同住宅）



建物と一体化した植栽帯を設け、多様な樹種の樹木や草木が植えられています。鑑賞的要素も持ち合わせている新しい生け垣形態です。

## 壁面緑化（個人住宅）



道路側の壁に格子を設置し、ツルハマナスをはわしています。玄関などの出入り口では涼しげで歩行者にとっても安らぎを与えています。

## 屋上緑化（目黒天空庭園）



大橋ジャンクションの屋上緑化。大都市における都会のオアシスを創造する緑化技術の発信の場として先導的な役割を果たしています。

## ビオトープ（緑ヶ丘小学校）



区内の学校には、トンボなどの生息ができる池などのビオトープが20箇所、整備されています。生き物とのふれあいは感性をはぐくみます。

## 目黒区のみどり

—みどりの実態調査報告書概要版—

2015（平成27）年3月発行  
発行 目黒区都市整備部みどりと公園課  
電話 03-3715-1111(代表)